

## L-ラーニング学習支援システム研究分科会の成果と展望

駒澤大学図書館 佐藤稔彦  
東京歯科大学図書館 阿部潤也

### はじめに

大学図書館員の専門性についての議論は過去から現在まで、様々な場所で多く議論されてきた。しかし、近年においては自己の業務に追われるために「スキルアップ・自己学習の場がない」という時間的制約。他部門への人事異動や正職員の減少、あるいはアウトソーシング導入の増加による「専門職員の流動化」。それらに起因する「研修会や講習会への参加機会の減少」は既に現実のこととなっている。これらの厳しい現実を受け止め、大学図書館員がその専門性を確認するためには何が必要であろうか？私達は図書館員のための「総合学習支援システム」が必要であると考えます。

### 発足までの経緯

当分科会は大学図書館員を対象としたメーリングリスト内での「図書館員の専門性について」の議論に端を発している。平成14年に「Project ALTRE」として活動を開始し、平成15年にプロジェクト名を「LL Project」に変更するとともに、その活動を一般への公開開始をしている。その後、平成16年4月に「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」を発足し、現在に至っている。

### 分科会の目的

当分科会の目的は「大学図書館員の自己点検、自己学習、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築ならびに評価、分析」であり、これまで2つのフェーズを経て研究活動を行ってきた。

### 第1フェーズ目標

第1フェーズの活動は「WEBでの模擬試験の公開」であり、公開に向けて「2年間で問題を500問作成する」「作成問題及び学習支援システムの評価と分析を行う」「認知度を高める」を目標に行った。ただし、これはあくまで模擬試験であり、学習支援システムの開発のための布石という面もあった。



模擬試験ウェブサイト

### 運用

分科会発足以前の問題作成にはメールを利用していたが、「メールではやりにくい！まとまらない！」「メール画面では（RE:RE:RE:・・・）」という返信マークが延々と続き、ごちゃごちゃする」という理由から、主に「電子掲示板」(図1)を利用することとした。電子掲示板ではひとつのスレッド（記事）にひとつの問題を書き込み、それについて意見を発言していくことで問題推敲を行う、という運用をした。それぞれの問題がツリー形式で表示されるので、誰がどの問題や発言に意見しているのかがひと目でわかるというメリットが大きかった。またメールで

は、問題文の表現方法や言葉遣い等の問題作成全体に係るような事柄についての意見を交わしたりすることに利用した。電子掲示板やメールでは解決し切れなかった事項に関しては、年4回行われる分科会で話し合いを行った。電子掲示板やメールの内容は、メンバー全員が把握しているので、効率よく話し合いを進めることができた。この3つのツールを使い分けることで、業務が忙しく時間の取れない場合でも積極的に研究分科会活動をおこなうことができた。



電子掲示板

## 評価

「図書館員として知っておかなければならない知識とは何か」「メンバー間の担当業務や考え方の相違」あるいは「活動に対するモチベーションの維持」などの問題点が挙げられた。一方で分科会としての目標設定が明確であったため軸のぶれない活動ができたことは評価されることであろう。利用者からは「大学図書館員として必要な知識を確認でき大変有益だと思います」「解説もすばらしい(特にリンクが親切)」等の評価をいただいた。一方で「業務別・主題別の問題作成」「問題のグレード化」という分科会発足以前からの課題であった事項も改めて指摘された。これらの評価を踏まえ、図書館業務を学習するに適した形にまとめなければならないという結論が出された。その解決策として「L-ラ

ー的体系学習システム」を作成することとなった。

## 第2フェーズ目標

第1フェーズの課題と結論から、第2フェーズからは「L-ラー的体系学習システム」の作成に取り掛かった。どのように図書館の業務を体系化すれば、自分の学習したい分野を集中的に学習することができるか、効率的に学習できるシステムをどうやってゆくかということから、「図書館業務の体系化」「模擬試験で出された過去の問題のデータベース化」を目標とした。

## 体系化とデータベース化

「図書館業務の体系化」については「選書」「図書受入」「図書整理」「雑誌全般」「図書館システム」「電子資料全般」「閲覧」「ILL」に分類し、これを「L-ラー的図書館体系」(図2)と命名した。この体系を基づき、これまでに作成した149の問題をそれぞれ分類することとした。分類にあたってはすべての問題をデータベースに登録し、それぞれの分類の担当者が問題ひとつひとつにタグ付けを行った。ひとつの問題を複数の分野に分類できることもデータベース化したことによるメリットであった。

## 評価

体系化することで「必要な部分を効率的に学ぶことができる」「現場にそくしたスキル・知識をまとめられる」「受け取り手が自分で知っておくべきことを選ぶことができる」といったように学習が可能となった。しかし「体系の区分自体のメンテナンス方法の問題」「概念を含めた最新情報を取り入れる方法」等、新たな問題も発生した。図書館用語にはあやふやなものが数多くあること、図書館システムや電子資料に関する分野は日進月歩であることから、問題の内容が変わってしまう。加えて、個人による認識や見

方の違いを調整する必要性もある。こういった問題点を解決するためには、掲示板以上の機能が必要であるという結論が出た。



L-ラー的図書館体系

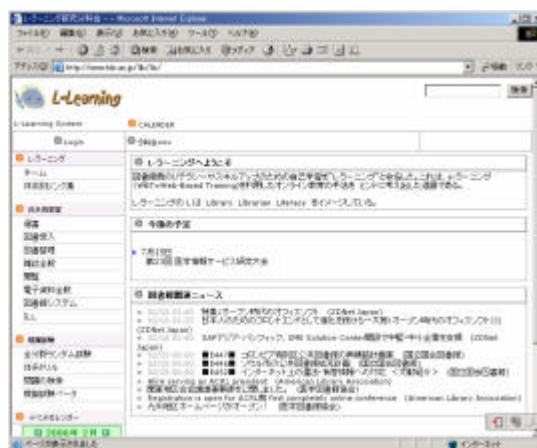
## 展開

第2フェーズの「図書館業務の体系化」「データベース化」の提供手段として「XOOPS」を採用することとした。XOOPSはCMS(コンテンツマネジメントシステム)のひとつであり、当初はそれぞれの問題をひとつのhtmlコンテンツとして登録することでデータベース化を図る予定であった。しかし、体系的な学習ページの提供ということでは機能的にもう一步のため、体系化および検索についてはXOOPSのモジュールとして開発を行い、XOOPSとして統一的に提供できるようにした。

## L-ラー的学習支援システムについて

さらに第2.5フェーズとして、XOOPSの整備を行い、「L-ラー的図書館体系」に基づいて、それぞれの分野にテキストとなるようなコンテンツを提供することとした。ただし、このコンテンツ作成においてはメンバー間での認識の相違や作業量の問題により、完成には至っていないのが現状である。またXOOPSの基本機能として提供されているモジュールを活用してみた。RSS配信される図書館にまつわるニュースを登録することにより、当サイトにアクセスするだけで

有用な情報をタイムリーに得ることを可能とした。また、コンテンツのひとつであるイベントカレンダーは図書館に関する行事等を登録できる。登録については、現在のところメンバーのみが可能だが、誰でも登録できるようにすることで、より有効なカレンダーを構築することが可能である。体系別リンク集では「L-ラー的図書館体系」に基づくリンク集の作成、「模擬試験ベータ」ではHot Potatoesというクイズ作成のためのツールをXOOPSのモジュールとして模擬試験を実施できるため、評価している最中である。



L-ラー的学習支援システム

## 第3フェーズ展望

今後はそれぞれのコンテンツに対して、当サイトを訪れた人に協力してもらい構築をするという計画がある。そのモデルとなるのはフリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」であり、その開発と運用が第3フェーズとなっている。

## まとめ(メンバーの感想)

良かった点

- ・「気軽に学習」がコンセプトであるが、体系的に学習ができるというのは理にかなっている。検索機能で自分の得たい情報を即時に入手することもポイントである。
- ・自分の担当以外の知識や館種の違いによる知

識の相違を知ることができるのが特徴である。

・試験問題と同様、図書館という職業人の自覚も芽生えるという人的な効果も期待できる。

#### 今後の課題

・学習というよりは業務のためのツールになってしまう危惧もある。学習としてのインターフェースに特化する手段もあるか。

・真に大学図書館員にとっての学習システムとして昇華させるためにはさらなる議論が必要である。

・体系ページを解説と問題とで構成してみたが、両者が大きく隔たっていた。

・模擬試験は内容を深めたり発展させたり疑問を解明するには不向きな点が多い。

・全体をコントロールする管理者または管理グループが必要。

#### リンク

L-ラーの学習支援システム

<http://www.tdc.ac.jp/lib/lis/>

模擬試験

<http://ml.lss.tama.ac.jp/cgi-bin/tqindex.cgi>

分科会 WWW

<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/lis/XOOPS>

<http://www.xoops.org/>

Hot Potatoes

<http://hotpot.uvic.ca/>

ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

#### 用語解説

CMS...Web コンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築したり編集したりするソフトウェアのこと。(IT用語辞典 e-Words より)

RSS...Web サイトの見出しや要約などのメタデータを構造化して記述するXMLベースのフォーマット。主にサイトの更新情報を公開するのに使われている。(IT用語辞典 e-Words より)

L-ラー...「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」の略称。分科会として名称変更も視野に入れている?

エルラ...当分科会のマスコットキャラクター。

地球に存在する生物ではないらしい?



エルラ

#### 参考文献

池田剛透「L-ラーニング大学図書館員模擬試験公開のご案内」

『専門図書館』, 199, p52, 2003  
[http://www.jsla.or.jp/books/mokuji\\_2003.html#001](http://www.jsla.or.jp/books/mokuji_2003.html#001)

池田剛透「L-ラーニング大学図書館員模擬試験の評価と分析」

『図書館雑誌』, 97(9), p658-660 2003.9  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jla/zasshi.htm>

池田剛透「L-ラーニング・オンライン模擬試験の実施経過と次期フェーズ」

『大学図書館問題研究会誌』, 25, p29~37, 2004.2

<http://www.dai token.com/pub/journal.html>

大学図書館問題研究会第 35 回全国大会 (2004/8/8)

「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」の活動と展望 鶴見大学会館 池田剛透

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/9195/endai.html>

私立大学図書館協会 研究分科会交流会 (2004/11/12)

「L-ラーニング学習支援システム研究分科会」報告 慶應義塾大学/日吉 池田剛透